

リード芦屋新聞

発行元

リードあしや

記事 空未
寺本

写真 野谷和奏

自分のやりたいこと

子供の将来を考えたパン教室運営、川津真理さん

「しい」と話す。

◇

ようになっています。

パン教室「スタジオ パ・パローン」代表の川津真理(かわつ・まり)さんにインタビューした。パン教室を開く夢を叶えた川津さん。「パンの作り方だけでなく、料理をする楽しみや食事の大切さも知ってほ

私は、子どもの食育が大切だと思っています。子どもの味覚は3歳までに形成されてしまうと言われてい

ます。そのため、このパン教室では、2歳から通える

社会を生きていく中で料理を作る力は、役に立つと思います。料理をすることができたら、親がいなくても、子ども食堂などに行かなくてもお腹を満たすことができます。もし親の帰りが遅く、子ども食堂などに通っていたとしても、それは短期的なものでしょう。大人になると、カツプラーメンなど栄養の偏ったものに頼ってしまうかもしれません。そうなることを



大人のパン教室には、看護師の人や高齢者の人、パン教室を開きたい人たちが通っています。年代を超えて、誰でも通いやすいパン教室です。大人数の教室ではできない、個人教室ならではの良さを大切にしてい

子どもと対等な立場で

個人教室ならではの良さ、大切に

このパン教室をやっていること、小さい時に通ってくれた子どもが私のところを訪ねてくれて、私の何気なく言ったことを覚えていたり、叱ったことを覚えていなかったりすること

です。子どもにとって残る記憶と残らない記憶がどんなことなのか分からないな

と思います。だからこそ、「面白い」とも言える

と思います。気がつけていることは、「子どもと対等な立場で話

すこと」です。子ども扱いせず、甘やかすすぎないことで、子どもが自分で行けるようになり、どんどん上達していきます。

子どもたちには「自分の好きなことを伝えられるようになってほしい」と思っています。親が決めたことに納得せず、続けてしまうと、大人になって後悔してしまうからです。

私には「女性だから」と諦めることのない社会になってほしいと思っています。女性は、キャリアを結婚や子育てのために断念してしまふことが男性よりも多くあります。女性の少ない職業につきたいと思っても踏み切れないこともあるでしょう。先輩に経験を聞けるネットワークをつくること

が大切だと思います。



と、健康に生活できなくなってしまう。自分で料理ができたなら、継続的に自分の健康を守ることができ

ます。教室で学ぶことは、年齢によって違います。2歳の小さいお子さんには、野菜

の皮を剥いたり、匂いを嗅いだりして、料理の楽しさを感じてもらいます。小学校高学年や中学生には、大人と同じレベルの料理スキルを身につけてもらいたい

と思っています。子どもの野菜嫌いをなくすために、無理やり食べさせなくてもいいと思っ

ています。その野菜を食べてほしいときは、料理中に味見をさせるのが効果的です。味見の段階では、子どもは空腹なので、嫌いなものを食べても美味いと感じる

いつも何事にも挑戦 成功重ね、達成感を

私は今でも、やってみて

いたことは挑戦してみようと思っ

ています。料理を通して、達成感や成功体験を重ねていってほしい。成功を続けていくこと

によって、料理の楽しさを感じてもらえると思っ

ています。子どもから学んだことは、「何

度も怒られても失敗してもチャレンジすることの大切さ」

です。それに

よって、子どもはどんどん

すこと」です。子ども扱い

せず、甘やかすすぎないこ

とで、子どもが自分で行

けるようになり、どんどん

上達していきま

す。

私は「女性だから」と諦

めることのない社会になっ

てほしいと思っています。

女性は、キャリアを結婚や

子育てのために断念してし

まうことが男性よりも多く

あります。女性の少ない職

業につきたいと思っても踏

み切れないこともあるでし

ょう。先輩に経験を聞ける

ネットワークをつくること

が大切だと思います。

成長していくのだと思っ

ています。昨年4月から、保育園も

開きました。私が保育士にな

ったのは、小さいお子さん

もパン教室に通わせたい

という母親がいたのがきっ

かけです。ここでは子ども

がいる人も働いています。

お母さんたちにとって、子

どもを預かってもらえる時

間は「お金にも変えられな

いくらい大切な時間」で

す。